



学校間交流について

11月1日から4日にかけて、5年生は修学旅行として台湾に行きました。

2日目には現地の高校を訪問しました。A・C組は恵文高校、B・D組は忠明高校にそれぞれ向かいました。学校自体とても大きく、高校とは思えないほど広い施設の様子に驚いている生徒も多くいました。歓迎会では台湾の伝統文化を披露してもらい、また現地の高校のことを教えていただきました。

歓迎会が終わった後、それぞれ分かれて、グループ活動を楽しみました。台湾の伝統的なお茶である「擂茶」(らいちゃ)を淹れたり、台湾の昔ながらのゲームを楽しんだりしました。中にはタピオカミルクティーを作ったり、伝統的な衣装を着たりと日本では体験できないような活動をしているグループもあり、どちらの高校でも現地の高校生と交流を深めることができました。

台湾修学旅行3日目



修学旅行3日目は終日班別行動だと聞いたとき当初は少し不安でした。我々14期生は新型コロナウイルス感染拡大による影響で、2年生のスキー合宿も3年生で行うはずだった京都・奈良研修旅行も実施できていないのです。国内での終日班別行動さえやっていないのに、果たして言葉も通じないような異国の地で朝から1日安全に過ごせるのだろうかと思いました。

しかし、いざ当日を迎えてみると、多少のトラブルはあったものの、どの班も充実した1日を過ごすことができました。3日目の行き先は台北市内か十分または九份を自由に選択可能で、私の班では十分・九份・永康街に行きました。十分では各々の願いごとをランタンに書いて空に飛ばし、九份ではレトロな雰囲気を楽しみ、永康街では有名なマンゴーかき氷を堪能しました。元々はローカル線を利用して十分に向かう予定でしたが、もたもたしていて乗り遅れてしまい、急遽Uberタクシーの利用に変更して臨機応変に対応しました。この日は門限の20時ギリギリまで台湾を満喫しました。

台湾修学旅行は、普段学校の中でしか交流のない友人たちとの絆を深める良いきっかけになりました。クラスメイトの意外な一面を知ることができました。班別行動は旅の計画から実行まですべて生徒に委ねられていて、先生方が生徒を信頼していることを痛感しました。その信頼を裏切らないように行動することが私たち生徒にとっての責任であり、貴重な成長の機会を与えてくださったことに感謝しています。